

あいおいニッセイ同和損保革新懇です。22回総会に於いて「戦争反対！9条守れの思いと行動の広がり」を共有しました。9条署名の呼びかけ文とニュース110号を紹介いたします。

<呼びかけ文>

2026年5月

ニュース読者のみなさまへ

あいおいニッセイ同和損保職場革新懇
世話人一同

あいおいニッセイ同和損保職場革新懇ニュースのご送付 ならびに「憲法9条改悪に反対する請願署名」取り組みのお願い

5月というのに各地で真夏日が観測されるなど、地球温暖化の影響を感じる日々が続いています。まだ暑さに慣れていないため、体調管理に十分気をつけてお過ごしください。

さて、4月12日に開催した第22回総会の内容をまとめた「あいおいニッセイ同和損保革新懇ニュース110号」をお届けします。ぜひ、お読みください。

なお、総会当日の講演内容（要旨）は末尾のQRコードからご参照ください。

また、総会で確認された運動方針「憲法9条改悪反対」の具体化として、「私たちは戦争につながる憲法改悪に反対します—憲法9条改悪に反対する請願署名」に取り組むこととしました。

この間の自民党政権は、憲法に基づく平和国家の原則を次々に壊してきました。

「集団的自衛権」を認める閣議決定、「軍事費GDP比1%以内」の引き上げ、「専守防衛」を形骸化する長射程ミサイルの全国配備、武器輸出の全面解禁、「非核三原則」の見直しなど。

そして、高市首相は先の自民党大会で、「時は来た」「改正発議にメドが立ったと言える状態で来年の党大会を迎えたい」と発言し、9条への自衛隊明記を含む憲法改悪を加速しようとしています。同封の職場九条の会共同ビラをご覧ください。

一方、5月3日に東京江東区で開催された「つながろう憲法いかして平和な世界を！2026憲法大集会」には約5万人（主催者発表）が参加し、全国各地で同様の集会が開催されました。

しかし、世論調査では必ずしも9条改正反対が多数を占める状況に至っていません。

戦争への歯止めが次々と壊され、まさに戦争する国づくりが進められている今こそ、私たちの思いを国会に届ける必要があります。

趣旨をご理解いただき、ぜひ、ご署名くださいますようお願いいたします。

署名の呼びかけ団体は「損保9条の会」、9月国会に提出予定です。

また、大変恐縮ですが、返信の切手代はカンパしていただければ幸いです。

よろしくお願ひします。

<総会講演要旨>



以上

【革新懇の三つの共同目標】

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

第22回職場革新懇総会の報告

2026年4月12日、オンラインにて第22回職場革新懇総会が開催されました。23名が参加し、議案と新年度の世話人が承認されました。鈴木国夫氏(市民と野党をつなぐ@東京共同代表)による講演「大道を行く」を経て、参加者からは高市政権への怒りや合併を控えた職場への不安、そして平和への決意が熱く語られました。跡部浩一氏による総会へのメッセージ(3ページ目参照)に、多くの参加者が応えられ発言されました。

講演の内容と感想は、4月27日ホームページに投稿しました。ホームページのQRコードを送り状に表示しました。是非お読みください。

【参加者発言と5人の賛同者のメッセージから】

高市強権政治と、深刻化する暮らしの問題

高市政権に対し、「国民が主人公ではなく、国家を支える国民という発想だ」「人気を利用した議席奪取はひどい」と、その強権的な姿勢を批判する声が続ぎました。「SNS 広告に多額の費用を投じて実態を知らない層の支持を集める手法や、小選挙区制による議席独占への危惧」が示されました。「裏金問題や統一教会問題も忘れていないし、「トランプは何様だ！トランプいいなりの政治を許さない」と怒りが込められ「今の日本が後退していくような不安があるが、不条理なことには抗い、ささやかでも意思表示を続けていきたい」とこれからの思いが語られました。

暮らしの面では、物価高に苦しむ国民を置き去りにしたまま「軍事費増強のために復興税を削る姿勢」や、「マイナンバーカードの強制的な運用」、「大手スーパーの最高益の利益がありながら無人レジによる客に不便を強いる経営姿勢」さらには「医療費負担増、介護報酬引き下げといった国民の生活の困窮」が指摘されました。「855億円もの高市首相の自己都合選挙費用を大雪対策や物価高対策に回すべきだ」という切実な怒りが寄せられ、「石油危機による農業資材の高騰に苦しむ農家の現状も見えていない」と批判がありました。地震大国における原発再稼働や増設に対しても、「安心・安全な原発はない」と断固反対する決意が多数語られました。また、真実を報道しないメディアへも厳しい視線を向ける必要があるとの声もあがりました。

戦争反対、9条守れの思いと行動の広がり

「戦争はイヤ！」「若者を戦場に送りたくない」という切実な思いは共通しています。「長野の無言館の戦没画学生遺作を見て、これが戦争のリアル」と報告があり、「高市政権が進める台湾有事への参戦発言、各地のミサイル基地化、殺傷兵器の輸出解禁といった戦争する国づくりはやめろ」のメッセージによる声が上がりました。こうした危機感は、具体的な行動へと急速に繋がっています。「平和憲法を守るための国会前行動」では、3月25日に2万4000人、4月8日には3万人(全国では4.9万人)の市民が、ペンライトや手作りうちわやプラカードを手に集まり、「戦争反対！」「9条守れ！」「高市退陣！」の声が響きました。「若者や子ども連れのママが多く参加し、これからの日本の希望だ！」、地域でも「28回を数えるピースパレードや講演会」や、「100人が集まった4月8日の9条守れの地元駅頭集会」など多くの行動に若者が多く集まる「新しい流れ」が報告されました。



合併を目前に控えた職場の現状

総会では、MSの職場の現状を含め、職場の現状を資料を掲示し説明しました。

参加者からは「後輩が心配だ」との声があがりました。これからも現役との対話、MSの仲間と情報交換をおこないます。(2ページ目の合併情報その3をご覧ください)

講演感想:市民連合の取り組みに学ぶ

鈴木氏の講演に対し、「市民連合の取り組みを初めて聞き、非常に勉強になった」という感想が寄せられました。特に、野党共闘における「中道改革連合」の立ち位置や、選挙結果の分析を通じて、今後の市民運動が進むべき方向を考える上で重要な示唆を得る機会となりました。

2026年 革新懇で対話、行動を！ (運動方針はホームページにて公開)

総会では、混迷を極める政治状況だからこそ、「問題意識を共有し自由に話せる革新懇の場が大切だ」との認識が共有されました。 (右上につづく ↑)

つながろう 憲法いかして平和な世界を！

憲法施行から79周年となる5月3日、東京・有明防災公園にて「2026 憲法大集会」が開催され全体では5万人、損保9条の会の仲間とともに、あいからは7人が参加しました。



憲法共同センターの代表は、「憲法大集会を結節点に、憲法を生かし平和・命・暮らし・人権を守っていこう。草の根の地域、職場から声をあげていこう。9条改憲を許さない一点で国会議員とも連帯し、9条を守っていこう」と呼びかけました。



会場では手作りののぼりやプラカードをかかげる若者、なぜ国旗が？と思えば真ん中が○ではなくハートだったり、一人で参加し真剣にエールを送っている女性も数多く見受けられました。

身近なところでも、初めて息子を誘ったら即答で一緒に参加した、帰りの電車で若い女性から「初めて参加したけど楽しかった」と声をかけられた等、これまでにない経験が広がっています。

“みんなで集まって楽しい” って大きなパワーではないかと心がおどりました。(T)

具体的には、憲法9条改憲阻止、労働法制の改悪反対、ジェンダー平等、消費税減税、社会補償の充実、原発ストップなど、生活に直結する課題に注力し、合併を前にした現役との対話をすすめ、ホームページやニュースでの情報の発信、損保9条の会との連携、仲間づくりを大切に運動をすすめます。

また、4月19日国会前行動、5月3日憲法大集会への参加や、九条の会始め6団体が呼びかけた「憲法9条改悪に反対する請願署名」、「5月16日東京革新懇人間講座、対話が日本を変える」などを呼びかけました。(4月19日国会前には3万6000人の市民が集まり声をあげました)

<職場は今 合併情報 その3>

2027年4月の合併に向けた職場環境の現状は、大きな変化と混乱の渦中にあります。

・4月から始まった先行同居により、車通勤の不可など、通勤環境への不安も広がっています。また関連事業会社のADの不動産部門では、パソナへのアウトソーシング(150名ほど)が計画されており、労働時間の延長や賃金低下が深刻な問題となっています。

・業務面では、合併準備の負担増による本社での長時間労働や、営業現場での厳しい数字追求が続いています。また、AIの活用が評価に直結するMSでは、正確性よりも効率が優先される場面も見られます。

・人事面では、MSを基準とした新人事制度への統合に対し、不利益を懸念する声や「スキル型人事制度」に対する不安の声が多数寄せられています。60歳以降のシニア社員の処遇維持(3年間)の交渉が継続されています。MSの早期退職制度には希望者が多く1日で締め切られた実態がありますが、ADでも早期退職制度の導入が検討されています。現役社員は「3度目の合併」による疲弊や将来への不安を抱えていますが、「不利益を回避すべく」組合が交渉を継続しています。



大変ご無沙汰しております。4月の総会に際し、国内外の苛烈な情勢に対する私の愚見を述べさせていただきます。

秩序なき大国の「力の支配」と日本の現在地

私たちは今、かつてない異常な時代に置かれています。2024年から2026年にかけて、プーチンによるウクライナ侵攻やイランへの奇襲攻撃など、秩序なき世界で大国による「力の支配」が平然と展開されています。中国もまたその隙を狙い、自らの正当性を主張しながら力を誇示しています。このような時代だからこそ、世界は日本がどのような役割を果たすのかを注視しています。しかし、我が国の現状はどうでしょうか。トランプ氏の来日に際し、日本初の女性総理大臣が見せた振る舞いは、国際社会に対して不見識さを露呈するものでした。その後の総選挙では国論を二分するような強気な姿勢を見せながら、日米首脳会談では国際法違反の攻撃に対しても終結を求めず、ただ「憲法九条」を盾に外交をしのごばかりです。かつての安倍政権の姿勢を引き継ぎつつも、具体的な説明を欠いたまま、「国民会議」なるもので議会制民主主義を空洞化させている現状を、私は危惧しています。

暮らしや平和の為の「今日的国民連合」の結集を対する野党側にも大きな課題があります。総選挙において中道勢力は戦略ミスから大きく後退しました。

国民が政治に求める課題は鮮明です。今こそ、1970年代に提起された「民主連合政権構想」を現代の情勢に則して見直すべきではないでしょうか。SNSレベルの無責任な正義感が政治を劣化させ、国を分断する勢力が台頭する今、それに対抗する「国民連合」の結集が必要です。名称が「革新」であれ「統一」であれ、こだわりはありません。トランプ関税やホルムズ海峡封鎖による世界的な物価上昇、そして先行きの不透明さという切実な事態を解決するために、今こそ力を合わせるべきです。

憲法九条を守り、戦争をしない決意

私が考える連帯の柱は二つあります。一つは前述した生活課題の解決、そして二つ目は「武力放棄・核廃絶」の実現です。戦争を始めるのは容易ですが、終わらせることは極めて困難です。私たちは80年前の悲惨な体験、そして広島・長崎の犠牲から、生命の尊さを十分に学んできたはずですが、被爆者の方々が世界に核廃絶を訴え続けてきた活動がノーベル平和賞という形で実を結んだ今、政権延命のための姑息な意図が入り込む余地などありません。いかなる理由があろうとも、戦争をする国もその勢力も不要です。憲法九条を解釈によって形骸化させようとする動きがありますが、「戦争反対・生命を守る」という本質に解釈の余地はありません。軍拡が必要だという世論が形成されつつある今だからこそ、私たちは「戦争はしない」という世論を形成し、堂々と活動を展開すべきです。22回総会がその出発点になりますように呼びかけます。

自分の言葉で考え、行動すること

最後に、何より大切なのは「主語」を明確にすることです。「私は」「私たちは」という主語を持ち、自らの意見で対話しましょう。AIに答えを求めたり、声の大きな正義論に流されたりすることなく、自ら考え行動することを忘れないでください。

私のこれから

私自身、昨年秋からNPO活動の新たなステージを目指していましたが、79歳の誕生日に出血性脳梗塞に見舞われました。現在は言語障害や身体麻痺もなく、左眼の視野欠損という状態で回復の見込みなしとの見解を受けました。私はそれがあるがままに受け入れ、この寄稿にスマホを駆使して挑戦しました。現在は「独眼竜」を気取りながら、妻のサポートを受ける日々です。再び皆様とお会いできる日を楽しみに、これからもどう生きるかに挑戦し続けます。皆様のご活躍とご多幸を心より願っております。